

## ■花と泉の公園の施設内容の見直しについて

### 1. 現況と課題

#### (1) 施設の状況について

平成7年3月、花と泉の公園条例を制定し、平成7年5月に東北最大級の規模を誇る「ぼたん園」を開園。平成12年4月には公園のもう一つの核として、通年型交流施設「れいな de ふろーれす」をオープンし、年間を通じて花を観賞できる施設「ベゴニア館」のほか、レストランや物産販売コーナー、加工体験室を整備した。

花と泉の公園の年間来園者数は平成14年の約10万人をピークに年々減少し、東日本大震災以降は毎年2万人前後で推移しており、ピーク時から比べると1/5程度まで落ち込んでいる状況にある。

また、「ベゴニア館」や「レストラン・物販施設」は、開園から20年以上が経過し施設の老朽化が著しく、多額の修繕費を要する状況となっており、現在の施設内容のまま、施設を維持していくことが困難となっている課題がある。

(P8「来場者数の推移(年度別)」参照)

#### (2) 施設の管理運営体制

花と泉の公園は、平成11年6月に公園の管理・運営を通じて花卉振興・都市交流等を促進し、地域の活性化を図る目的で設立された第三セクター「花泉観光開発株式会社(資本金1億3,200万円:1,320株。市は資本金の51%に当たる6,700万円を出資。社長ほか役員3名、従業員15名。)」が管理運営を行っている。平成12年度から町の委託事業として公園の管理運営等が始まり、平成18年度から指定管理に移行し、現在に至っている。

花泉観光開発(株)の収入は指定管理料のほか、各施設の入園料収入、レストラン運営や物産販売による自主事業収入が主であり、支出については、従業員給与をはじめ、施設の水道光熱費や草花の栽培経費、自主事業実施経費が主である。

また、平成30年度末現在、資本金正味残高が11,667千円まで減少しており、早急な対策を講じなければ資本金正味残高がマイナスとなる状況となっており、花泉観光開発(株)の収支改善を図るための条件整備を早急に進める必要がある。

(P9「花泉観光開発(株) 年度別収支の状況」参照)

## 2. 見直しに係る要件等（検討経過・方向性）

### (1) 検討経過

#### ① 施設ごとの収支（指定管理料を除いた場合）

◇平成30年度部門別収支内訳

（単位：千円）

区分		ベゴニア館	生産温室	ぼたん園	物販	レストラン	合計
収入	入園料	5,203	—	5,916	—	—	11,119
	売上収入	1,481	—	4,662	7,511	13,558	27,212
	手数料	156	155	156	1,078	156	1,701
	合計①	6,840	155	10,734	8,589	13,714	40,032
支出	人件費	7,032	9,939	7,091	5,948	4,578	34,588
	製造原価	1,164	1,276	1,297	3,583	5,493	12,813
	管理諸費	10,556	5,996	4,738	3,078	6,317	30,685
	合計②	18,752	17,211	13,126	12,609	16,388	78,086
差引（①－②）		△11,912	△17,056	△2,392	△4,020	△2,674	△38,054

※ 指定管理業務：ベゴニア館、生産温室、ぼたん園

自主事業：物販、レストラン

収入、支出とも全て税抜きの金額で計算

施設ごとの収支をみると、ベゴニア館と生産温室の維持管理経費に多額の費用を要しているが、これらの費用は、花の栽培に必要な人件費や水道光熱費であり、現状の管理運営のままでは削減できる費用ではない。

#### ② 施設ごとの収支の分析による見直し案

- 施設の機能維持のため多額の維持管理経費や修繕費を要するベゴニア館の施設内容を見直し、維持管理費が低減する施設へのリニューアルが必要。
- 展示機能をベゴニア館から生産温室へ移行することで、現ベゴニア館の経費節減と生産温室に展示することによる展示環境の改善。

生産・展示機能を残すことで、補助金返還は生じない。

補助金返還額の試算：合計 266,841 千円

ベゴニア館 133,846 千円、レストラン・物販施設 120,221 千円、生産温室 12,774 千円

- 既存ドッグランの拡充を図るとともに、レストラン・物販コーナーの運営形態の見直しによる収支の改善。

以上の取組により、花と泉の公園を廃止せずリニューアルして施設全体の管理に努めていくことを選択した。

### 3. 各施設の主な整備内容

施設内容の見直しは、前述の現状、課題及び分析した内容に加え、これまで市に寄せられてきた要望や、花泉地域で開催した「花と泉の公園活用ワークショップ」での意見、花泉観光開発㈱社内で検討した内容などを踏まえ、次のように進めていきたいと考えている。

#### (1) 子どもの遊び場

ベゴニア館を、雨天時などにも利用できる屋内型の子どもの遊び場として整備する。

市の子ども・子育て支援事業計画の中で、子育てに喜びを感じ、家族の絆と地域で支え合うまちづくりの推進を掲げており、子育て支援の一環として、親と子が一緒に遊べる子どもの遊び場の拡充を図るとともに、子育て世代の来園を促進する。

##### ① 検討状況

子どもの遊び場については、以下の取組等を参考に、以前から検討を重ねてきた。

##### 【東北の主な施設の情報収集】

- ・ 福島県伊達市－スマイルパークほばら、パレオパークやながわ、ファミリーパークだて、ちびっこ広場
- ・ 山形県天童市－子育て未来館げんキッズ
- ・ 山形県山形市－べにっこひろば

##### 【子育て関連アンケート（ふれあい広場利用者、保育施設等）】

－雨の日でも遊べる施設、遊具がたくさんある広い施設など

##### ② 市への意見、要望

- ・ 子ども・子育て支援事業計画策定に向けた会議での要望  
－雨天時の遊び場の確保やおやこ広場の土日開催など、子どもの遊び場確保には保護者の要望が多い。
- ・ 市長へひとこと－屋内遊具のある施設の設置
- ・ 総務省のアドバイザー派遣事業（H22年度）による提言  
－子供や青少年の育成や高齢者福祉の向上に寄与する施設機能など、公共的価値を上げることが必要。

##### ③ 関連会社や施設からの情報収集

スノーピーク / モンベル / おもちや美術館（東京）

##### ④ 利用見込み

##### ○ 子どもの数

（単位：人）

区分	一関市	平泉町	栗原市	登米市	合計
小学生未満	4,448	323	2,362	3,315	10,448
小学校低学年	2,487	161	1,414	1,824	5,886
合計	6,935	484	3,776	5,139	16,334
未就園児	1,376	77	487	1,249	3,189

※ 未就園児：小学生未満から就園児数を引いた数

○ 市内からの利用者

保健センター内にあるふれあい広場利用者の1/2程度の利用を見込む  
(未就園児の1.2%が利用)

- ・ 平日 1,376人×0.6%×2(保護者同伴) ≒16人/日(149日/194日)  
12月～2月の利用は、さらにその1/2(45日/194日)
- ・ 休日晴れ 平日の2倍 32人(16人×2倍)
- ・ 休日雨雪 平日の5倍 80人(16人×5倍)

○ 市外からの利用

低学年までの人数の0.1%の利用を見込み、休日のみ利用するものとする  
(16,334人-6,935人)×0.1%×2(保護者同伴) ≒18人/日

○ 利用見込み数

(単位：日、人)

日数			市内利用者			市外利用者	合計
平日	休日晴れ	休日雨雪	平日	休日晴れ	休日雨雪	休日	
194	71	43	2,744	2,272	3,440	2,052	10,508

(2) ドッグラン

公園機能の一つである日常的に利用できるレクリエーションの場として、生産温室前の空き地に、大型犬・中型犬用と小型犬用にエリア分けしたドッグランを新たに整備するもの。

また、レストラン南側の水辺空間を改修してペットと一緒に食事ができるスペースを整備し、レストランの利用増も図る。

① 検討状況

ドッグランについては、既存のドッグラン施設を拡充して新たに整備する方向性を考えている。

・ 近隣施設の状況

－登米市「道の駅三滝堂(無料)」と北上市「ドッグワン(有料)」がある。

・ 「平成30年全国犬猫飼育実態調査」(一般社団法人ペットフード協会調べ)

－飼育意向を持っている方々は全世代を通じて2割程度であり、犬を飼育できるような環境の整備やサービスを求めているという調査結果

・ 一関市及び近隣市町の犬の飼育傾向(各年度末現在)

(単位：頭)

年度	一関市	栗原市	登米市	平泉町	合計
H30	7,249	4,795	4,998	384	17,426

② 市への意見、要望

・ ぼたん園にあるドッグラン利用者の声

－現在、花公園内に簡易的なドッグランを設置しているが、利用者の方々も徐々に増加しており、施設拡充の要望が寄せられている。

・ 市長へひとことでの要望

－県内外の愛犬家の憩いの場、ドッグラン・ドッグカフェの整備

### ③ 利用見込み

#### 【参考（北上市のドッグラン施設）】

- 利用料金（1頭あたり）  
入会金：400円 / 利用料：会員400円、非会員500円
- 営業時間  
10：00～17：00 / 夏季10：00～18：00、冬季10：00～日没（16：00過ぎ頃）
- 利用頭数（冬季）  
平日：20～30頭 / 休日：100頭前後 / 会員数：約3,400頭（設立からの累計）

東北管内から利用者が訪れる北上市のドッグラン施設を参考に、その利用者の約3割程度を見込む。

- ・ 平日、休日（土日祝祭日）の日数  
年間の平均休日：120日程度 / 平日：365日－120日＝245日程度
- ・ 利用料  
1頭当たり入会金1頭400円、利用料300円を見込む
- ・ 平日及び休日の利用者数  
平日：1日平均5件、休日：1日平均30件の利用頭数を見込む
- ・ 入会金  
入会者が月1回は利用するものと仮定すると  
$$\{(5 \text{ 件} \times 245 \text{ 日}) + (30 \text{ 件} \times 120 \text{ 日})\} \div 12 \text{ 月} = 402 \text{ 件}$$

### (3) 生産温室の活用

現在、ベゴニア館で担っている展示については、生産温室への移転や物販スペースを活用して実施する。生産温室は、2棟のうちA棟では栽培、B棟では季節の草花などの展示・販売を行う。

また、これまでベゴニア館で行っていた箱庭作り教室などの体験メニューもB棟で実施するとともに、隣接するドッグランの利用者も含めた休憩場所としても活用し、相乗効果を図る。

※ 子どもの遊び場、ドッグランの具体的な内容については、さらに詳細検討を行う。

#### 4. 花と泉の公園の施設見直し後（令和3年度以降）の収支予測

##### (1) 花泉観光開発㈱全体の収支見込み

花泉観光開発㈱の令和元年度決算見込みを基に、前述の施設内容の見直しを行った場合の収支予測については以下のとおり。

◇令和元年度決算見込みを基に施設内容の見直しを反映させた場合 (単位：千円)

区分		R1 決算見込み (2月試算)	ベゴニア館	生産温室	子どもの 遊び場	ドッグラン	変更額
収入	入園料	10,574	△5,500	—	—	1,608	6,682
	売上収入	26,837		—	—		26,837
	手数料	1,511		—	—		1,511
	合計①	38,922	△5,500	—	—	1,608	35,030
支出	人件費	33,362	△3,931	△3,010	2,295	920	29,636
	製造原価	18,905	△7,723	0	3,265		14,447
	管理諸費	21,288	0	0	0	150	21,438
	合計②	73,555	△11,654	△3,010	5,560	1,070	65,521
差引計③ (①-②)		△34,633	6,154	3,010	△5,560	538	△30,491
指定管理料④		35,323	指定管理料については、令和3年度以降の積算基準額				30,841
営業利益⑤ (③-④)		690					350
営業外収支⑥		52					36
法人税・住民税 及び事業税⑦		403					300
当期利益 (⑤+⑥-⑦)		339					86

##### ① ベゴニア館、生産温室の見直しに係る指定管理料減額分

- ・ 収入 … 入園料収入 5,500 千円 (@800 円×6,875 人)
- ・ 支出 … 人件費 6,941 千円 (給与等ベゴニア館3,931千円/生産温室3,010千円)  
施設管理費 7,723 千円 (消耗品費、光熱水費、原材料費) 計 14,664 千円
- ・ 差引 … 支出 14,664 千円－収入 5,500 千円＝9,164 千円 ※9,164 千円の減

##### ② 子どもの遊び場設置に係る指定管理料増額分

- ・ 収入 … 入園料は無料のため、収入なし
- ・ 支出 … 人件費 2,295 千円 (管理職員給与及び法定福利費等：1 人)  
施設管理費 3,265 千円 (光熱水費) 計 5,560 千円
- ・ 差引 … 支出 5,560 千円－収入 0 千円＝5,560 千円 ※5,560 千円の増

③ ドッグランによる収入増額分

・ 収入 … 入園料収入 1,608 千円

平日利用 (1,225 件) 5 件×245 日×300 円=367,500 円  
休日利用 (3,600 件) 30 件×120 日×300 円=1,080,000 円  
会員登録 4,825 件÷12 ヶ月÷402 件×400 円=160,800 円

・ 支出 … 人件費 920 千円 (給与及び法定福利費等：1 人)

※生産温室と共同で業務にあたることから、1/2を見込む

管理諸費 1,070 千円 (消耗品費、燃料費) 計 1,070 千円

・ 差引 … 収入 1,608 千円－支出 1,070 千円=538 千円 ※ 538 千円の増

## 5. 今後の進め方

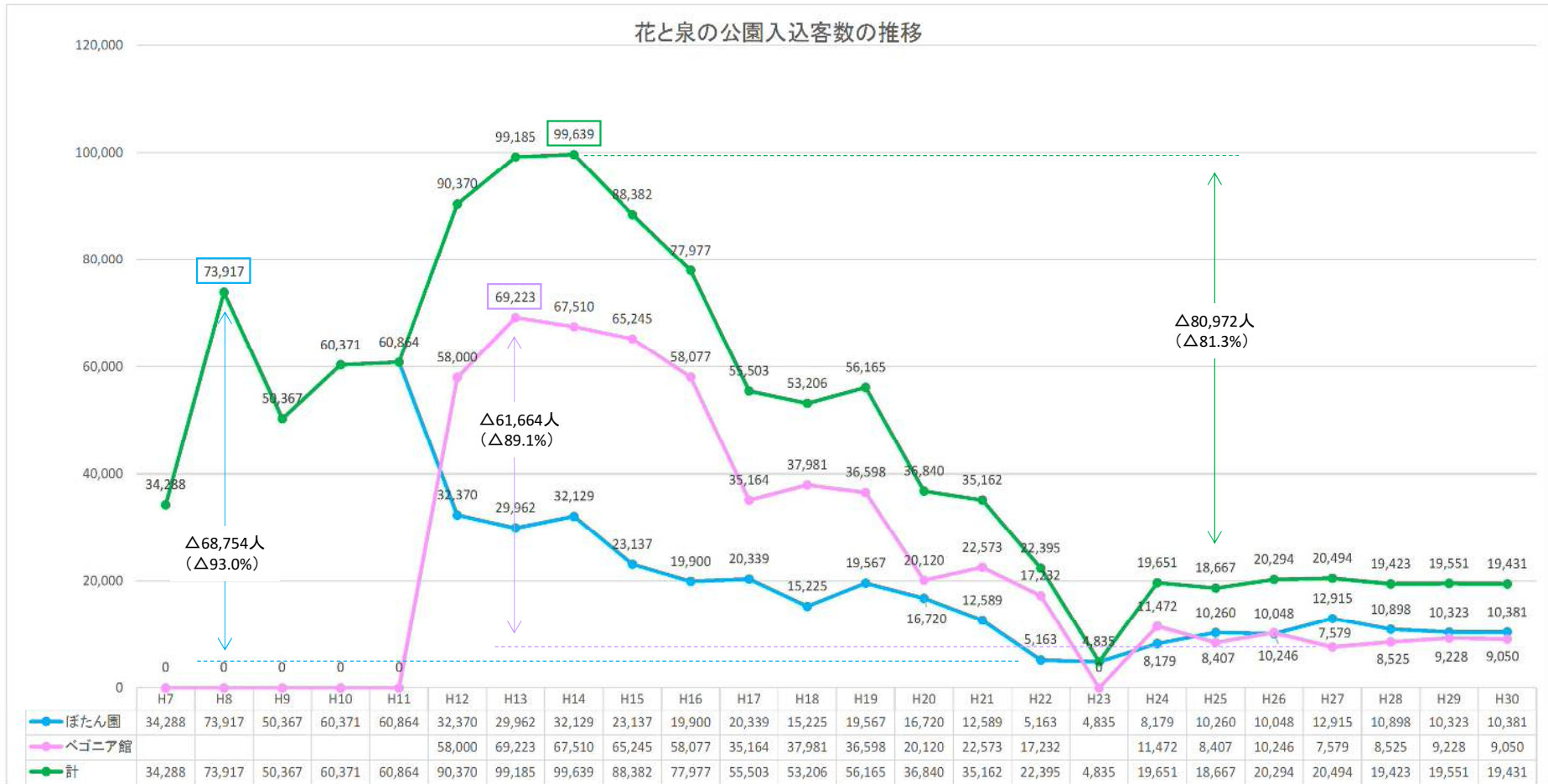
(1) 花泉観光開発㈱との共通認識

これまで同様、月 1 回程度の会社役員との意見交換会、週 1 回程度の事務レベルの関係者協議を継続しながら、共通認識を図って進めていく。

(2) 関係機関及び住民への説明

今後、花泉観光開発㈱の株主や一関市観光協会花泉等の関係機関及び住民に、再度、詳細についての説明を行うとともに、各説明会において出されたご意見等を勘案しながら、最終的な施設内容の見直しの方向性を決定していく。

■ 来場者数の推移(年度別)





■花泉観光開発(株) 年度別収支の状況

(単位:人、千円)

項目	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
入園者数	60,864	90,370	99,185	99,639	88,382	77,977	55,503	53,206	56,165	36,840
収入(売上)		134,910	149,135	146,324	139,010	125,178	108,574	100,871	113,935	91,645
うち入園料収入		69,934	74,105	69,392	59,782	52,481	37,787	34,384	37,568	24,412
委託料・指定管理料		25,935	28,875	28,875	32,000	31,500	29,925	23,789	35,000	35,000
その他収入		39,041	46,155	48,057	47,228	41,197	40,862	42,698	41,367	32,233
支出(経費)	21,647	154,577	144,513	140,584	140,106	155,715	133,454	121,557	113,202	101,677
当期利益(損失)	△ 21,647	△ 19,667	4,622	5,740	△ 1,096	△ 30,537	△ 24,880	△ 20,686	733	△ 10,032
資本金正味残高 (資本金1億3,200万円)	110,353	90,686	95,308	101,048	99,952	69,415	44,535	23,849	24,582	14,550
管理運営形態	管理委託	→						指定管理	→	
備考	・6月ペゴニア館 オープン ・無料開放	・ぼたん園無料開 放					・9月 市町村合併	・指定管理開始		・6月 岩手宮城内陸地 震

項目	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
入園者数	35,162	22,395	4,835	19,651	18,667	20,294	20,494	19,423	19,551	19,431
収入(売上)	88,338	82,746	61,130	78,323	76,093	80,300	79,213	77,474	79,225	75,147
うち入園料収入	21,382	13,810	1,659	12,087	10,057	11,482	11,884	12,184	11,590	11,119
委託料・指定管理料	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000	36,852	36,852	37,617	37,871	37,924
その他収入	31,956	33,936	24,471	31,236	31,036	31,966	30,477	27,673	29,764	26,104
支出(経費)	85,870	90,865	60,698	76,343	74,654	79,869	78,022	76,970	79,142	78,439
当期利益(損失)	2,468	△ 8,119	432	1,980	1,439	431	1,191	504	83	△ 3,292
資本金正味残高	17,018	8,899	9,331	11,311	12,750	13,181	14,372	14,876	14,959	11,667
管理運営形態	指定管理	→								
備考		・3月 東日本大震災	・震災によりペゴ ニア館休館 (12月中旬まで)							

※ 平成11年度はペゴニア館オープン記念として無料開放したことから、ぼたん園のみの入場者数。